

【第33回3級(管理業務)学科試験】

(はじめに)

すべての問題文の条件設定において、特に断りのない限り、他に特殊な事情がないものとします。また、各問題の選択枝における条件設定は独立したものと考え、同一問題内における他の選択枝には影響しないものとします。

特に日時の指定のない限り、2019年1月1日現在で施行されている法律等に基づいて解答しなさい。

解答は、選択枝ア～ウの中から1つ選びなさい。

問1

ア～ウを比較して、著作物に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 地図は、著作権法上の保護対象となる。
- イ 編集著作物として保護されるためには、素材の選択及び配列の両方に創作性を有さなければならない。
- ウ 著作権法の条文自体は、著作権法上の保護対象となる。

問2

ア～ウを比較して、著作権者の許諾を得ないで行うことができる行為として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 営利を目的とした教育機関において、授業で使用する目的で、公表された著作物を複製する行為
- イ 無償で配布することを目的として、業として著作物を複製する行為
- ウ 公表された著作物を、入学試験の目的上必要と認められる限度において、当該試験の問題として複製する行為

問3

ア～ウを比較して、特許法の目的に関する次の文章の空欄 に入る語句として、最も適切と考えられるものはどれか。

この法律は、発明の保護及び利用を図ることにより、発明を奨励し、もって の発達に寄与することを目的とする。

- ア 経済
- イ 学術
- ウ 産業

【第33回3級(管理業務)学科試験】

問4

ア～ウを比較して、著作者等に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 職務著作に係る著作物の著作者人格権は、著作物を創作した従業者と法人その他の使用者が共有する。
- イ 映画の製作に関わったすべての者は、当該映画の著作物の著作者となる。
- ウ 共同著作物とは、2人以上の者が共同して創作した著作物であって、その各人の寄与を分離して個別的に利用することができないものをいう。

問5

ア～ウを比較して、不正競争防止法に規定されている不正競争行為として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 他人の商品の形態を模倣した商品を販売する行為
- イ 商品の品質を誤認させるような表示をする行為
- ウ 不正の利益を得る目的で、他人の商標と類似するメールアドレスを取得する行為

問6

ア～ウを比較して、わが国が加盟している条約又は協定に関する次の文章の空欄 1 に入る語句として、最も適切と考えられるものはどれか。

1 は、各国で異なる国内での特許出願手続を最低限に統一し、簡素化することで、出願人の負担を軽くすることを狙いとした条約であり、日本では平成28年6月に効力が発生した。

- ア 特許法条約 (P L T)
- イ 知的所有権の貿易関連の側面に関する協定 (T R I P S 協定)
- ウ 特許協力条約 (P C T)

【第33回3級(管理業務)学科試験】

問7

ア～ウを比較して、著作権の侵害に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 法人等の従業者がその業務において著作権を侵害した場合は、行為者本人ではなく、使用者である法人等が刑事罰の対象となる。
- イ 著作物の全部ではなく、一部分を真似ただけの場合は、たとえその部分に創作性があったとしても、著作権の侵害とはならない。
- ウ 他人の著作物の存在を知らずに、酷似した作品を創作した場合は、その他人の著作権の侵害とならない。

問8

ア～ウを比較して、商標登録出願の審査に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 商標登録出願人に対して拒絶理由通知がされ、意見書を提出したが当該拒絶理由が解消されない場合には拒絶査定がされる。
- イ 商標登録出願の審査は、出願人からの出願審査の請求を待って行われる。
- ウ 拒絶理由通知への対応として、出願当初の願書に記載されていた指定商品を類似する商品へ変更することは、要旨変更の補正として認められない。

問9

ア～ウを比較して、特許法に規定する出願公開の請求に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 出願公開の請求は、何人も行うことができるが、特許出願人以外からの請求があった場合は特許庁長官が公開の可否を決定する。
- イ 出願公開の請求は、特許出願人及び利害関係人に限り行うことができる。
- ウ 出願公開の請求は、特許出願人に限り行うことができる。

【第33回3級(管理業務)学科試験】

問10

ア～ウを比較して、著作権の存続期間の終期に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作者がわからない彫刻の著作物の著作権の存続期間は、著作権の登録をした日の属する年の翌年1月1日から起算する。
- イ 映画の著作物の著作権の存続期間は、公表された日の属する年の翌年1月1日から起算する。
- ウ 公表された職務著作に係る著作物の著作権の存続期間は、その公表された日の属する年の翌年1月1日から起算する。

問11

ア～ウを比較して、意匠登録出願に基づいてパリ条約による優先権を主張して外国に意匠登録出願をすることができる期間として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 最先の意匠登録出願の日から12カ月
- イ 最先の意匠登録出願の日から6カ月
- ウ 最先の意匠登録出願の日から18カ月

問12

ア～ウを比較して、著作物の権利譲渡契約に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア すべての著作権を譲り受ければ、著作者人格権も譲り受けることができる。
- イ 著作権を譲渡する契約において、一部の権利について譲渡の目的として特掲されていない場合であっても、これらの権利が譲渡した者に留保されたものと推定されることはない。
- ウ 著作権者から適法に購入した言語の著作物を第三者に譲渡する場合、著作権者から譲渡権を譲り受ける必要はない。

【第33回3級(管理業務)学科試験】

問13

ア～ウを比較して、商標登録出願、商標権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 商標登録出願は、出願日から6カ月を経過した後に出願公開される。
- イ 商標権は更新登録の申請により存続期間を更新することができ、その申請は利害関係人が行うことができる。
- ウ 商標権の存続期間の更新登録の申請は、存続期間の満了日を経過した後であっても、一定の期間内であれば、その申請をすることができる。

問14

ア～ウを比較して、種苗法において品種登録を受けるための要件の1つとして、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 進歩性
- イ 有用性
- ウ 均一性

問15

ア～ウを比較して、著作権の制限に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 私的使用目的であっても、インターネット上で、違法な複製物と知りながら当該複製物をダウンロードすることはできない。
- イ 絵画の著作物の原作品の所有者は、当該著作物の著作権者の許諾を得ずに公に展示することができる。
- ウ 未公表の著作物を引用して利用することができる。

【第33回3級(管理業務)学科試験】

問16

ア～ウを比較して、意匠法に定める登録料に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 第2年目以降の登録料の納付期限が経過した後でも6カ月以内であれば追納することができる。
- イ 登録後第2年目以降も意匠権を維持するためには、前年以前に、法に定められた登録料を納付する必要がある。
- ウ 意匠権が国と国以外の者との共有に係る場合であって、国以外の者の持分の割合が50%以上であるときは、国以外の者が全額の登録料を納付する。

問17

ア～ウを比較して、特許出願の審査に関する次の文章の空欄 に入る語句として、最も適切と考えられるものはどれか。

審査官は、拒絶をすべき旨の査定をしようとするときは、特許出願人に対し、拒絶の理由を通知し、相当の期間を指定して、 を提出する機会を与えなければならない。

- ア 意見書
- イ 陳述書
- ウ 鑑定書

問18

ア～ウを比較して、特許協力条約（PCT）における国際出願の国際公開の時期として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 優先日から12カ月経過後
- イ 優先日から30カ月経過後
- ウ 優先日から18カ月経過後

【第33回3級(管理業務)学科試験】

問19

ア～ウを比較して、著作物に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 美術工芸品は、美術の著作物として保護される。
- イ 著作権法第10条第1項に規定されている著作物のみが、著作物として保護される。
- ウ 公に表現されていない小説の構想自体は、著作物として保護される。

問20

ア～ウを比較して、特許を受けることができる発明に該当するものとして、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許出願前に、電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明
- イ 特許出願後であって、出願審査の請求前に公然実施された発明
- ウ 特許出願前に、外国において頒布された刊行物に記載された発明

問21

ア～ウを比較して、発明、考案の保護に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 自然法則に反する技術について、特許法による保護を受けることができない。
- イ 方法の考案について、実用新案法による保護を受けることができる。
- ウ 発明の技術情報を営業秘密として管理することにより、その発明について不正競争防止法による保護を受けることができる場合がある。

【第33回3級(管理業務)学科試験】

問22

ア～ウを比較して、商標権の発生と効力に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 商標権は、登録査定の際の本が送達された日に発生する。
- イ 商標権者は、指定商品若しくは指定役務についての登録商標に類似する商標の使用又は指定商品若しくは指定役務に類似する商品若しくは役務についての登録商標若しくはこれに類似する商標の使用をする権利を専有しない。
- ウ 商標権者は、その商標権を侵害した者に対して差止請求等の民事的措置をとることができるが、その侵害者が刑事罰を科されることはない。

問23

ア～ウを比較して、弁理士法に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 弁理士でない者であっても、特許料の納付の代理を業として行うことができる。
- イ 特許業務法人は、弁理士の業務を行うことができる。
- ウ 弁理士は、裁判外紛争解決手続の代理はできない。

問24

ア～ウを比較して、特許出願の出願審査の請求の手續に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許出願と同時に出願審査の請求を行うことができる。
- イ 特許出願人以外の第三者は出願審査の請求を行うことができない。
- ウ 特許出願の出願日から1年後に出願審査の請求を行い、その請求から1年後に出願審査の請求を取り下げることができる。

【第33回3級(管理業務)学科試験】

問25

ア～ウを比較して、著作権法に規定する著作者人格権等に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 実演家は、実演家人格権として公表権と同一性保持権を有する。
- イ 著作者人格権及び著作権の享有には、いかなる方式の履行をも要しない。
- ウ 著作者の意に反して著作物を改変することは同一性保持権の侵害となるが、著作物の題号を変更することは同一性保持権の侵害とならない。

問26

ア～ウを比較して、意匠登録を受けることができる意匠に該当するものとして、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 他人の業務に係る物品と混同を生ずるおそれがある意匠
- イ 意匠登録出願前に外国において公然知られた意匠に類似する意匠
- ウ 意匠登録出願後に日本国内において頒布された刊行物に記載された意匠

問27

ア～ウを比較して、著作者の権利が侵害された場合に著作権者がとり得る措置として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 登録移転請求
- イ 不当利得返還請求
- ウ 名誉回復措置請求

【第33回3級(管理業務)学科試験】

問28

ア～ウを比較して、特許ライセンス、共同開発に関して、独占禁止法上において問題となる可能性が低い行為として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア ライセンスを受けた者が開発した技術を、特許権者に対して専用実施権を設定することを義務づける行為
- イ 特許発明に係る製品のライセンスを受けた者に対し、販売価格を制限する行為
- ウ 共同開発の成果の第三者への実施許諾を制限する行為

問29

ア～ウを比較して、商標等に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 商標は、文字、記号、図形などから構成され、立体的形状も商標を構成するが、色彩は商標を構成しないため、立体的形状に色彩を付加した商標については、商標法上の保護対象とはならない。
- イ 将来においても自己の業務に係る商品又は役務について使用しないことが明らかな商標については登録を受けることができない。
- ウ 地域で育まれた伝統と特性を有する農林水産物や食品を特定できるような名称が付されているものであれば、その名称を地理的表示として国に登録することができる。

問30

ア～ウを比較して、著作権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作権者から許諾を得て適法に販売された音楽の著作物の所有者は、有償であっても著作権者に無断で他人に譲渡することができる。
- イ 著作権者から許諾を得て適法に販売された映画の著作物の所有者は、有償であっても著作権者に無断で公衆への上映目的で頒布することができる。
- ウ 著作権者から許諾を得て適法に販売された写真の著作物の所有者は、有償であっても著作権者に無断で他人に貸与することができる。

【第33回知的財産管理技能検定】

【3級学科】

番号	正解
問1	ア
問2	ウ
問3	ウ
問4	ウ
問5	ウ
問6	ア
問7	ウ
問8	イ
問9	ウ
問10	ア
問11	イ
問12	ウ
問13	ウ
問14	ウ
問15	ウ
問16	ウ
問17	ア
問18	ウ
問19	ア
問20	イ
問21	イ
問22	イ
問23	ウ
問24	ア
問25	イ
問26	ウ
問27	ア
問28	ウ
問29	イ
問30	ア